



淀川調査

大阪の生物多様性ホットスポットの一つである淀川において、魚類や二枚貝などの生息状況を長期にわたり把握するため、10年に一度の全域調査や、イタセンパラを野生復帰したワンドでの定期的な調査を行っています。

淀川環境



城北ワンド群

- 淀川には流れのある本流以外に、ワンドと呼ばれる“入り江”や“たまり”が多くあります。
- イタセンパラやヨドゼゼラなどが生息する一方、チャンネルキャットフィッシュやコクチバスなど新たな外来種が侵入しています。

調査内容



地曳網による調査

魚類調査

- 長さ30mの地引網や延縄による魚類捕獲や、環境DNAを用いた分布調査を行っています。
- 魚類の生息状況や繁殖状況、外来種の侵入状況を把握し、保全などに役立てます。



魚の鰓に寄生する腹口吸虫類

魚病調査

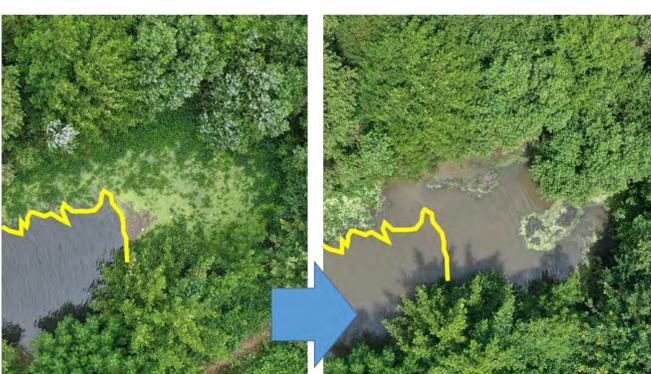
- 魚類の大量死を起こす可能性のある疾病が発生していないかを、調査しています。
- 自然生態系への影響把握のみならず、飲み水の原水となる淀川での魚類へい死の原因究明に寄与します。



調査で確認した貝類

二枚貝調査

- イシガイ科二枚貝は、タナゴ亜科魚類の産卵に必要である等、生態系で重要な役割があります。
- 二枚貝類の生息状況や繁殖状況、魚類への二枚貝幼生の寄生状況などを調査しています。



ドローン撮影による駆除状況の確認

外来植物調査

- 水面を覆うように繁茂し、生態系や水質に影響を及ぼす、外来水生植物の分布について調査しています。
- 種ごとの効率的な駆除・抑制方法の開発に向けて、試験を行っています。